



春日小だより

平成24年2月1日
練馬区立春日小学校
校長 菊岡 紀子
学校通信 2月号

広げよう！深めよう！春日の絆

～ 一つの小さな行動が、やがて大きな流れに ～

副校長 小瀧 隆雄

「お一つずつ お持ちください」

未曾有の震災を体験した昨年。もう一年近くも経つのに、つらく悲しい出来事はまだ終わっていません。



しかし、その困難な状況の中で懸命に生きる被災者の方や支える方々の姿から、逆に勇気や生きる希望をいただけるように感じるのは私だけではないでしょう。

被災地のマンションでのこと。「お一つずつお持ちください」の言葉とともに置かれた段ボール箱。中には、当時入手困難な野菜が入っていました。その後様々な物が置かれ、最後には「ご自由にお使いください」と自転車の空気入れまで置かれていたのだそうです。

「ありがとうございました」等と感謝の言葉が綴られると、その箱は温かな支え合いの掲示板になりました。このときを境に、挨拶ぐらいしか交わさなかった人々の間に、支え合いが広がったのだといいます。



3月11日、都内では、帰宅困難者が深夜の街で家路を急いでいました。ある団地の前に、カイロとキャンディーが「お一つずつお持ちください」というメモとともに置かれていたのだそうです。きっと身体だけでなく心も温めてくれたことでしょう。

かかわり合いで学ぶ 生きる力

このように、たった一つの行動が、かかわった人に大きな影響を与えることがあります。かかわり合いの中で、温かな思いやりを感じたとき、人は成長していくのでしょう。

子供たちも、日々のかかわり合いの中で、生きる力を身に付けていきます。だからこそ、春日小では、人と人のかかわりを大切にして、異学年交流や地域学習を進めています。

1年生は、近隣の幼稚園や保育園の子供たちを招いて学校案内をし、交流遊びを重ねてきました。学習発表会でも、小学生として園児の前で発表しました。

2年生は、1年生のために学校案内したり、生活科で作ったおもちゃで遊ぶ「おもちゃランド」に招待したりして1年生とのかかわりを深めてきました。

3年生は、デイサービスにて地域の高齢者の方と交流を深める学習を毎年続けています。



4年生では、水道局の方から水道の役割や仕組みを学ぶことを通して、働く方々への感謝の気持ちをはぐくみます。

5年生は、卒業関連行事や委員会活動等を通して、6年生から最高学年としてのバトンを引き継ぎます。

6年生では、地域のお店や幼稚園、保育園等にご協力いただき職場体験を行います。

異学年交流として、学習発表会では、一つ上の学年の発表を聴くなど学習面での学び合いに取り組んでいます。全校遠足では、交流学年とペアを組んで交流するなど、生活面でのかかわり合いにも取り組みました。

もちろん、日々の授業の中でも、学び合いの場面をできるだけ多く設定して、子供たちの成長を促しています。

絆を深める地域行事



本校の子供たちは、学校だけでなく、地域の方からたくさんのことを学んでいます。

第四地区の活動では、ハイキングやサッカー大会等で、自然とふれあったり仲間と協力したりすることを学びます。青少年委員会のジュニアリーダーの養成や葉かげの集いでも子供たちは貴重な体験を得ています。

人が人を育て 人の輪が人を支える

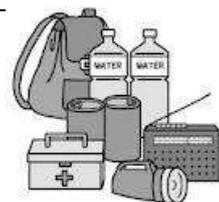
「人が人を育てる」「人の輪が人を支える」そんな春日の街に出て、これからも学んでいきます。お世話になることも多いかと思いますが、どうぞ宜しくお願いします。

春日町会見守り隊の皆さんの温かな声かけが今朝も響きます。温かなあいさつや思いやりの言葉が人を繋ぎます。先の委員会発表でも、保健委員会の高学年が思いやりの言葉の大切さを全校児童に訴えていました。

絆が深いところで、人は育ち、地域の安全は守られます。保護者・地域の皆様とともに、優しい心遣いができる人を育てていきたいと思えます。その心遣いが、学校や家庭、地域の大きな流れになることを願って…。

支えられていることに感謝している今日この頃です。

1月15日(日)、練馬区99箇所の避難拠点が、一斉に防災訓練を実施しました。本校は、情報拠点としての役割も担っているので、通信訓練も併せて実施しました。



避難拠点委員会の皆様を中心に、日頃の訓練の成果を発揮して、滞りなく実施することができました。地域の避難拠点として、皆様の命と安全を守る取り組みにも努力していきます。